

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2974300093		
法人名	株式会社エース		
事業所名	グループホーム太陽十津川 折立の郷		
所在地	奈良県吉野郡十津川村折立364-1		
自己評価作成日	平成30年10月13日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2974300093-00&PrefCd=29&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成30年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域住民との交流を大切に、お花見・夏祭り・盆踊り等の行事に積極的に参加し、自らも主催者となりグループホーム夏祭りを開催しています。家庭的な雰囲気作りを心掛けアットホームな生活を送って頂けるように取り組み、入所者様とその家族様が安心と希望のある未来が実現できるように努力しています。また、訪問介護・認知症対応型通所介護・介護付き高齢者住宅・介護タクシー・移動支援事業等を併設、奈良事業所との連携、多様化するニーズに対応できる体制作りにも力を入れています。また温泉を利用し旅館業やふれあいサロンを開設しました。防災に関しては、スプリンクラー・火災通報装置・自動火災報知設備・2Fからの避難路の設置等と共に、消防署・十津川村役場・地域住民と連携しながら、災害に強い施設づくりをしています。また十津川村における地域資源や社会資源の開発にも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

奈良県最南端山間集落十津川村に最初に設立されたグループホームである。地域柄、行政や地域との連携は欠かせない。法人はグループホーム以外にも地域に必要な介護サービス事業を展開し、地域での存在感は大きい。利用者が自然豊かな中で安心して家庭的な日常生活が送れるように取り組んでいる。また、看取りも必然的に行っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「GH太陽は人間尊重を基本とし、家庭的な環境と地域住民との交流の下で」を理念として掲げ、地域の方々と共に支えあえる関係を築いていけるよう職員一同心掛けています。	「人間尊重・地域交流」を理念の柱にして、利用者支援に取り組んでいる。毎日のミーティングで注意事項等を確認、徹底を図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々が採れたての野菜を持ってきて頂く事があったり、GH夏祭りは地域住民の交流の場として定着し皆様毎年楽しみにされています。	地域柄、地域住民同士の絆は強い。村主催の行事に、利用者も参加している。又、事業所が行う夏祭りは地域のイベントとして住民の楽しみとなっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	リハビリや筋力アップを行えるふれあいサロンを平谷地区に開設し、障害のある方、介護をうけている方、一般の方などの隔たりなく、地域の交流の場となれるよう日々努力しています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は役員職員、折立総代、老人会会長が来られて、避難訓練の様子を見学して頂きご意見を頂戴して安全対策の参考にしてしています。	運営推進会議は行政職員、地域総代、老人会会長などの参加を得て年1回開催している。同時に行われる避難訓練、反省会にも参加者の意見を頂戴している。家族の参加は実現していない。	家族へ運営推進会議参加の呼びかけや議事録の送付が行われているが、参加は実現していない。引続き家族へ参加の働きかけを根気よく続ける取組みを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各市町村に求められている地域ケア会議の推進により、診療所医師、役場福祉、各事業所が参加して情報の共有や協力関係を築いています。	地域の特性として行政職員との連携は密に取れている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度法改正に伴い身体拘束適正化を重視した対応に努め、概ね3か月に1回ミーティングで話し合っています。玄関は離脱防止、警察や村から窃盗や不審者に対する注意喚起もあり、施錠は必要だと考えています。町田市の施設内殺人も記憶に新しい。	身体拘束について定期的にミーティングで話合われている。玄関は施錠、正面玄関通路の一部が事務スペースとして使われている。外部者侵入防止から屋外に番犬を配置している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のミーティングにおいて防止や早期発見に努めています。ちょっとした言動についても注意喚起しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の研修等に参加して学んでいます。その活用については十津川村社会福祉協議会と連携して対応していきます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	費用だけでなく疑問や不安に対する事柄についても納得していただけるよう説明しています。契約書や重要事項説明書で十分な説明をし納得して頂いた上で契約を交わしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者様の日々の会話の中から思いを、家族様が面会に来られた時などに意見や思いをお聞きし、ミーティング等で話し合って反映していけるよう努めています。	家族の大半が遠方のため、家族と事業所の直接接点は多くない。緊急入所の利用者も多く、入居後の暮らしの中で希望などを聴き、家族の意見や要望は面会時に聴くようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今日の出来事、反省点、今後の予定などについて毎日ミーティングで話し合い、運営に関する意見や提案を聞く機会になっています。	代表者は毎日行われるミーティングにおいて意見を聴いている。ベテランの職員が多く、お互いの性格など理解し合っている。代表者は意見や要望を受入れ改善に素早く対応している。職員は法人の他業種事業展開により兼務しており多忙に見える。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事と生活の調和が実現した社会を目指す「ワーク・ライフ・バランス」の考えを取り入れて、労務士様とも協力して職場環境の整備に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では奈良事業所への研修、外部研修についても参加できるよう日程調整等を行っています。新宮市医療センター地域連携室の研修によく参加しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奈良事業所との連携、新宮市医療センターや高森の郷の研修に参加させて頂いたり、同業者も参加する地域ケア会議に毎回出席しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から見学や体験をして頂け、不安な気持ちや要望をお聞きし、信頼関係の構築に努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階から面接や見学、契約時において不安や思いをお聞きして、担当のケアマネージャーとも連携してより良い信頼関係を結べるよう努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず必要とされているニーズを見極めるため、担当ケアマネージャーとも連携して情報を集めて取り組んでいます。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたんだり、食材の皮むき等、無理のない範囲で出来る事をして頂き「必要とされる存在」であると感じてもらっています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が病院送迎やお薬の手配、紙おむつを届けて頂いたりして、利用者様を共に支えていく関係の構築を目指したプランを試験的に実施しています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事に参加させて頂く事がお知り合いの方々とお顔を合やす機会となっています。地域の方々が面会に来られたり、村の地域性として病棟の待合室や集団予防接種等で村民の皆様と交流できる機会が多々あります。	地域行事への参加や病院受診などで知り合いと会うことが出来、交流の場となっている。利用者だけでなく、職員にも話しかけてくれる人がいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考慮しホールの座席や外出時の車の座席を考えています。また入浴を拒否される方には、仲の良い方にお誘いして頂いたり、ご夫婦同士で誘い合っています。		
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所者様とのサービスが終了しても、いつでも相談や遊びに来て下さいと声掛けています。地域性もあり家族様とお会いする機会もしばしばあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で思いや希望をお聞きして、お手紙等で家族様へもお伝えしています。また家族様の希望についても面会された時などにお聞きしています。入所者様本位のより良い暮らしができるよう努めています。	利用者の思いや希望は、緊急入所の方も多いため入居後の生活の中で、ゆっくりと話を聴くことで把握している。家族の思いは利用開始前の説明時や面会に来られた時などに聴き、電話や手紙などでも確認をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や担当ケアマネージャーより情報を得て、ファイルに綴って職員間で共有しています。利用者様との日々の会話の中にも様々な情報が含まれているので注意深く傾聴し、ミーティングで話し合い共有しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況を個人日誌に記録し、毎日のミーティングで報告や話し合いをして現状の把握に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者様や家族様に希望や意見をお聞きし、その内容を計画に反映させるように努めています。また心身に変化が見られた場合には関係者に相談し区分変更等も視野に入れ、計画を見直しています。	利用者や家族から聴き取った思いや業務引き継ぎ日誌などからの情報を反映させ介護計画を作成し、6ヶ月毎にモニタリングを行い、次の計画に連動させている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に排泄や入浴の状況・気づき等を日誌に記録して情報の共有に努めています。またその内容からミーティングの話し合いの議題や課題へとむずびついていきます。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護事業の多機能化だけでなく、温泉を利用した取組みや地域の憩いの場となるようなふれあいサロンを実施しました。幅広いニーズに対応できるよう努め、奈良事業所では今年3月新たに通所介護事業所を開設しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動に参加して、入所者様が地域を支える地域資源の一人一人であると理解しています。また新たな地域資源の開発にも力をいれています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との関係は定期的な受診だけでなく、往診にも応じて頂いています。医師や福祉関係者が集まる地域会議にも毎回出席させて頂いています。	地域性により医療機関が少ないため、入居後も以前からのかかりつけ医の診察を受けている。職員は利用者の心身の状態変化に常に注意を払っており、2ヶ月に1度の通院となっている。往診や緊急時にも臨機応変に対応してもらえ、地域ケア会議にも参加して医療との連携構築に努めている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の入所者様の情報や気づきを看護職員に伝えて連携をとり合い、看護職員からの気づきは医師へお伝えしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを作成しフェイスシートを活用して、日々の生活や情報をお伝えしています。家族様が入退院時に来て頂けない場合が多々あり、家族様に代わって手続きをすすめています。今年も新宮市医療センターでの研修に多数参加しています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所者様の終末期に関してはご本人と家族様の意向をお聞きし、主治医も往診にも来て頂ける関係が構築されています。ご本人及び家族様の希望にそった支援ができるように取り組んでいます。看取り指針についても役場へ提出し実施しています。	利用者、家族の意向を確認し、「看取りの指針」に添って対応し、「看取りケアの記録」を作成している。今年度は看取った方はいない。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDがグループホーム内に設置してある事もあり、運営推進会議の時に消防によるAEDの講習を行っています。また緊急時にはすぐに駆けつけて頂ける体制となっています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を実施し、今年は役場職員・総代・老人会の方々に見学して頂きました。災害時には消防・地域・役場が協力して頂ける関係が構築されています。消防署が近くすぐに駆けつけて頂ける環境にもあります。	スプリンクラー、火災報知設備などが整備され、避難訓練も運営推進会議と同日に実施している。反省会には会議の出席者も参加し意見をもらっている。行政、消防、地域の協力関係は構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勤務初日にプライバシーの保護や守秘義務について説明し署名をしてから勤務して頂き、プライバシー保護の重要性を理解して頂きます。不適切な言動や介護については日々のミーティングで話し合いをしています。	新入職員にはプライバシーの保護や守秘義務について研修を行い、守秘義務契約書を交わしている。日々の介助の中で運営者や管理者が気付いた時はすぐに注意し、ミーティング時にも話し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの衣服を選んで頂いたり、答え易い質問をすることで可能な限り自己決定できるよう支援しています。日頃から希望を言い易い関係作りに努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、入所者様の体調や希望に合わせて、臨機応変に対応しその人らしい生活が出来るように支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容に関しては職員(有資格者)によるカットだけでなく、希望される方には毛染めをしておしゃれを楽しんで頂いています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に体操を実施し、畑でとれた食材の皮むき等の下準備もして頂きます。お食事を企画し外食する事もあります。嚥下機能が低下している方にはとろみをつけたり刻んだり誤嚥防止に努めています。	食事は全て手作りで提供している。決まったメニューはなく、地産地消を心掛け、季節の作物を使い、時には運営者が猫で仕留めたシカやイノシシが提供されることもある。食事の準備に参加できる利用者がだんだん少なくなってきた。	特に朝食の献立がマンネリ化がみられ、たとえ一品でもメニューに変化を付け、利用者の食の楽しみを増やす取組みを期待する。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分確保については日々の記録に記載しています。嚥下機能が低下している方には、刻んでとろみをつけたりして食べやすい工夫をし誤嚥防止に努めています。また高カロリーのゼリーを活用することもあります。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	看護師による口腔チェックを定期的に行っています。歯磨きやぶくぶくが、義歯については洗浄剤を使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを理解して声掛けや誘導を行っています。排泄の時間をトイレに貼ったり、利尿剤を朝服用されている方は午前中を意識した対応をしています。また、おむつや紙パンツの使用を必ずしも否定せず、外出時には利用して出かけています。	排泄チェック表により各自の排泄パターンを把握し、適時な声かけで誘導を行う事により利用者の半数位は自立している。夜間は眠りを妨げないように吸収量の多いオムツを使用している方もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやバナナ等といった便の出やすい食材を提供し、個々の排便のタイミングや緩下剤の利用で便秘予防を心掛けています。また排便チェック表を活用して排便状況を職員間で共有しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴状況をチェック表で確認、共有しています。入浴嫌いの方については声掛けを工夫したり、仲の良い方に誘って頂いたりして、入浴して頂けるよう努めています。	入浴は週に2～3回を基準にチェック表で確認し実施している。見守りレベルの人が2人、後の5人は介助が必要で、同性介助の方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	思い思いの時間に昼寝をされたり、夏場は冷房や扇風機を、冬場は暖房や電気あんかを使用しています。夜間のおむつ交換で眠りを妨げる事がないように吸収量の多い物を使うこともあります。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	声掛けや一包化等の工夫をして飲み忘れのないよう心掛けています。用法や効能を記載した服薬管理ファイルを活用し、看護師様も含めて情報の共有にも努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皮むきが得意な方、洗濯物をたたんでくれる方等、個々の力を見極めて日頃からお手伝いをして頂き、また歌が好きな方には歌番組等、楽しみながら生活できるように支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に折立橋へ散歩に出かけたり、建物北側の畑の草むきをすることもあります。	地域の行事へは良い外出の機会ととらえ積極的に参加している。日常的な散歩や外気に触れる機会が少なく、家族同伴での外出も少ない。	利用者の日常的な外出が少なく、新規事業の温泉施設を活用できるようにするなど、更なる外出機会を増やす取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については基本的に行っていません。家族様が管理され、家族様の意向に沿った支援を行っています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話を取り次いだり、家族様からの手紙はご本人に渡して読んで頂いています。請求書等の送付時に利用者様の希望や要望、近況報告を記載してお送りしています。地域行事参加の写真も送っています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を花瓶に挿したり、行事写真をホールに掲示して回想法に利用しています。エアコンや扇風機で過ごしやすい温度になるよう調節しています。	大型テレビが設置された居間に六角テーブルやソファが置かれ、壁面に行事の時の笑顔の写真が貼られている。共用空間が一般家庭並みの広さなので、台所や玄関脇の事務スペースから利用者の様子を見守ることができる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには椅子とソファを設置し、利用者様同士の相性も考慮して座席を決め、楽しい時間を過ごせる共有空間となるよう努めています。独りになりたい時には居室へ戻られて過ごされています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々のADLからベッド利用や畳の上で布団を敷いたりして対応しています。現在ご夫婦で利用されている方もいます。居室扉には表札をつけ分かりやすくし、各部屋に設置されたトイレはヒーター便座で温水洗浄付きです。	居室の床が板間と畳敷きがあり、利用者に合わせて対応している。各居室に洗面台、トイレが設置されており、タンスは持ち込まれている。夫婦で利用している部屋もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限りご自身で排泄できるよう支援し各部屋にトイレを設置しています。居室ドアには表札をつけ分かりやすくし、安全に歩行ができるよう段差をなくしバリアフリー化に努めています。		